

4 エレベーター

■基本的な考え方■

エレベーターは高齢者、身体障害者等すべての人にとって、便利で安全な垂直移動手段として最も有効なものである。エレベーターは玄関ホール等利用しやすい場所に設ける。

また、かご及び乗降口ビークの構造は車いす使用者や視覚障害者等が円滑に利用できるように配慮する。

整備基準
4 エレベーター 直接地上へ通ずる出入口がない階を有する公益的施設で用途面積の合計が2,000平方メートルを超えるものには、かごが当該階(専ら駐車場の用に供される階にあっては、当該駐車場に車いす使用者が円滑に利用できる部分(以下「車いす使用者用駐車施設」という。)が設けられている階に限る。)に停止する次に定める構造のエレベーターを設けること。ただし、当該階において提供されるサービス又は販売される物品を身体障害者等が享受し、又は購入することができる措置を講ずる場合においては、この限りでない。
(1) かごの床面積は、1.83平方メートル以上とすること。
(2) かごの奥行きは、内のりを1.35メートル以上とすること。
(3) かごの平面形状は、車いすの転回に支障がないものとする。
(4) かご内には、かごが停止する予定の階を表示する装置及びかごの現在位置を表示する装置を設けること。
(5) かご内には、かごが到着する階並びにかご及び昇降路の出入口の戸の閉鎖を音声により知らせる装置を設けること。
(6) かごの出入口が複数あるエレベーターである場合は、かごが停止する階ごとの開閉する出入口を見やすい方法で表示するとともに、開閉するかごの出入口を音声により知らせる装置を設けること。
(7) かご内の左右両面及び正面の側板には、手すりを設けること。ただし、かごの出入口が複数あるエレベーターであって、当該側板に出入口を設ける場合においては、この限りでない。
(8) かご及び昇降路の出入口の幅は、それぞれ内のりを90センチメートル以上とすること。

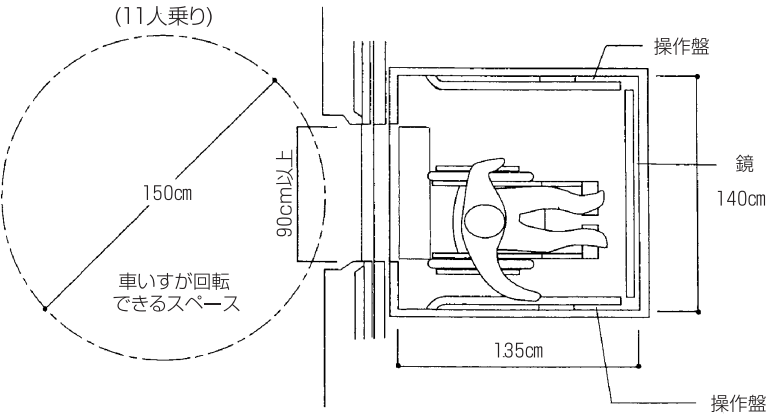
目標となる指針
4 エレベーター 1 不特定かつ多数の者が利用し、かつ、直接地上へ通ずる出入口がない階を有する公益的施設には、かごが当該階(専ら駐車場の用に供される階にあっては、当該駐車場に車いす使用者が円滑に利用できる部分(以下「車いす使用者用駐車施設」という。)が設けられている階に限る。)に停止するエレベーターを設けること。 2 1に規定するエレベーターのうち1以上のものは、次に定める構造とし、かつ、当該エレベーターを主たる廊下等に近接した位置に設けること。
(1) かごの床面積は、2.09平方メートル以上とすること。
(2) かごの奥行きは、内のりを1.35メートル以上とすること。
(3) かごの平面形状は、車いすの転回に支障がないものとする。
(4) かご内には、かごが停止する予定の階を表示する装置及びかごの現在位置を表示する装置を設けること。
(5) かご内には、かごが到着する階並びにかご及び昇降路の出入口の戸の閉鎖を音声により知らせる装置を設けること。
(6) かごの出入口が複数あるエレベーターである場合は、かごが停止する階ごとの開閉する出入口を見やすい方法で表示するとともに、開閉するかごの出入口を音声により知らせる装置を設けること。
(7) かご内には、非常事態を知らせる自動放送装置を設けること。
(8) かご内には、戸の開閉状態を確認することができる鏡を設けること。ただし、かごの出入口が複数あるエレベーターであって、かごの停止する階が2のみである場合(車いす使用者が車いすで後退しながら、かごを降りる必要がない場合に限る。)においては、この限りでない。
(9) かごの出入口に近接するかご内の部分には、かごの床材と異なる材質の床材を敷設すること。
(10) かごの出入口には、利用者を感知し、戸の閉鎖を自動的に制止することができる装置を設けること。
(11) かご内の左右両面の側板には、車いす使用者が利用しやすい位置にインターホンを設けること。
(12) かご内の左右両面及び正面の側板には、手すりを設けること。ただし、かごの出入口が複数あるエレベーターであって、当該側板に出入口を設ける場合においては、この限りでない。
(13) かご及び昇降路の出入口の幅は、それぞれ内のりを90センチメートル以上とすること。

- (9) かご内及び乗降口ビークには、車いす使用者が利用しやすい位置に制御装置を設けること。
- (10) かご内及び乗降口ビークに設ける制御装置((9)に規定する制御装置を除く。)は、視覚障害者が円滑に操作することができる構造とすること。
- (11) 乗降口ビークの幅及び奥行きは、それぞれ内のりを1.5メートル以上とすること。
- (12) 乗降口ビークには、到着するかごの昇降方向を音声により知らせる装置を設けること。ただし、かご内に、かご及び昇降路の出入口の戸が開いた時に、かごの昇降方向を音声により知らせる装置が設けられている場合においては、この限りでない。

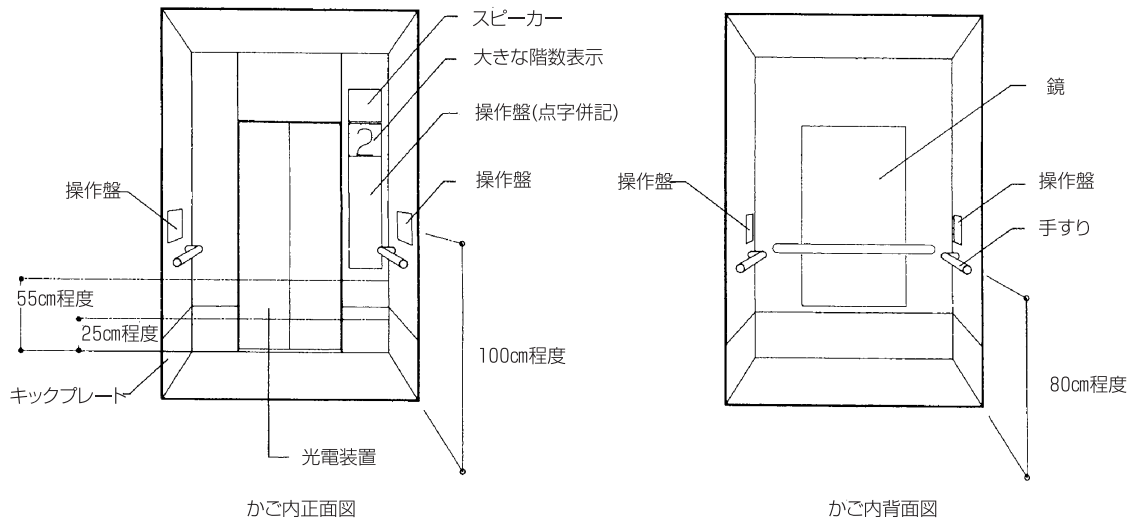
- (14) かご内の左右両面の側板及び乗降口ビークには、車いす使用者が利用しやすい位置に制御装置を設けること。
- (15) かご内及び乗降口ビークに設ける制御装置((14)に規定する制御装置を除く。)は、視覚障害者が円滑に操作することができる構造とすること。
- (16) 乗降口ビークの幅及び奥行きは、それぞれ内のりを1.8メートル以上とすること。
- (17) 乗降口ビークには、到着するかごの昇降方向を音声により知らせる装置を設けること。ただし、かご内に、かご及び昇降路の出入口の戸が開いた時に、かごの昇降方向を音声により知らせる装置が設けられている場合においては、この限りでない。
- 3 1に規定するエレベーターのうち2に定める構造のエレベーター以外のものは、規則別表第2イの表(建築物)4の項(エレベーター)の(1)から(3)まで、(8)及び(11)に規定する構造とすること。

整備基準の解説	
●整備の対象 直接地上へ通ずる出入口がない階を有する公益的施設に設置するエレベーターのうち一以上のエレベーターを車いす使用者及び視覚障害者対応の構造とする。ただし、用途面積の合計が2,000㎡を超える公益的施設に限り、エレベーターの設置を求めることとする。	
○「専ら駐車場の用に供される階のうち、車いす使用者用駐車施設が設けられていない階」については、当該階が車いす使用者による利用が見込まれない階であるため、エレベーターのかごの停止を求めている。	
○「当該階において提供されるサービス又は販売される物品を身体障害者等が享受し又は購入することができる措置を講ずる場合」には、①通常2階で行っている窓口業務内容を適宜1階で行える体制を整えている場合、②車いす用階段昇降機等により車いす使用者等を2階以上に上げることができる場合等が含まれる。	
項 目	解 説
(1)床面積	○車いす使用者も一般の利用者と同様にエレベーターには前進で乗り込み、中で向きを変えて前進で降りられることが基本である。かごの床面積(1.83㎡)は、11人乗りの場合の最低床面積である。 ⇒図 1 参照
(2)奥行き	○かごの奥行き(内のり135cm)は電動車いすも収まる大きさである。
(3)平面形状	○J I S T9201で定める手動式大型車いすが転回可能な大きさとは、11人乗り(かごの床面積1.83㎡、間口140cm×奥行き135cm)以上とされている。 ⇒図 1 参照
(6)かごの出入口の案内	○「かごの出入口が複数あるエレベーター」の場合、開閉するかごの出入口が到着階により変わることになるので、車いす使用者や視覚障害者が円滑に利用できるよう考慮し、表示及び音声による案内を行う。 ⇒図 5 参照
(8)幅	○かごの出入口の内のり幅90cmは、車いすで通過しやすい寸法。 ⇒図 1 参照
(9)制御装置の高さ	○設置位置は、車いす使用者の手の届く範囲を考慮し、床高100cm程度とする。
(10)制御装置	○車いす使用者の制御装置(操作盤)について視覚障害者対応を求めているのは、視覚障害者が車いすを利用する場合には介助者がつくことが予想されるためである。 ○制御装置の各ボタン、昇降方向及び現在階を点字で表示する。
(11)乗降口ビークの構造	○乗降口ビークの内のり幅及び奥行き150cmは、車いすが回転できる寸法。 ⇒図 1 参照

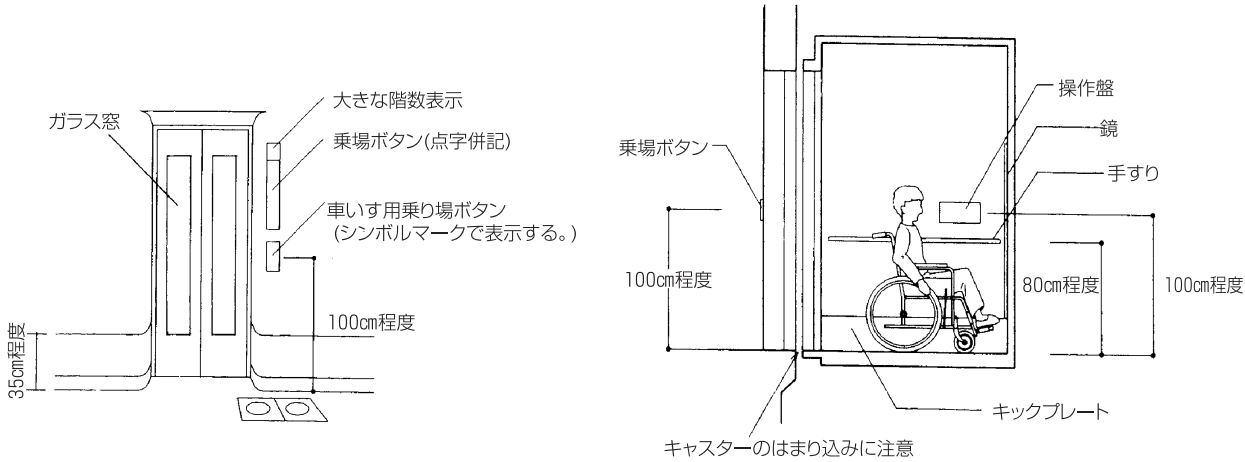
エレベーターの設計標準(11人乗り) (図1)



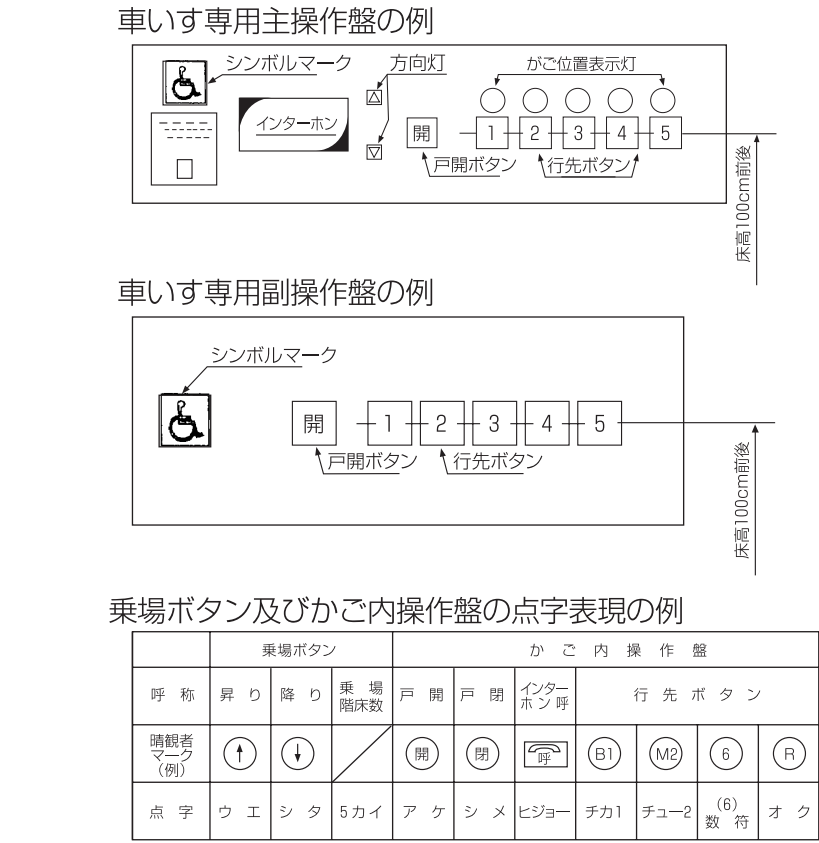
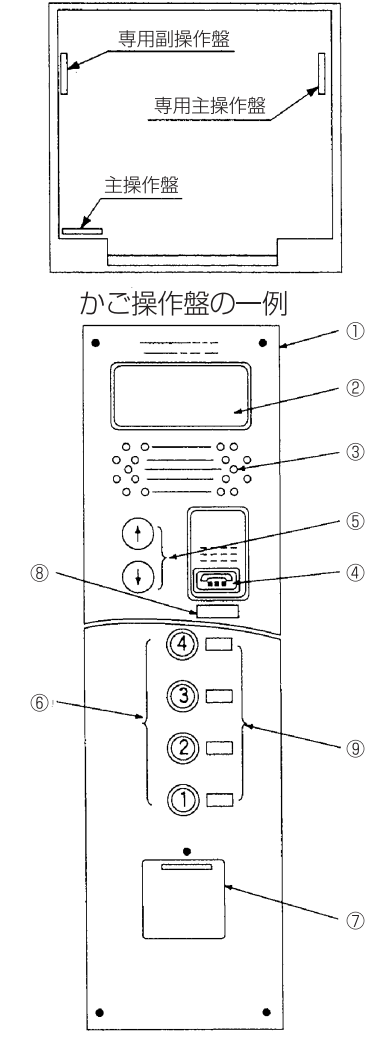
エレベーターのかごの仕様 (図2)



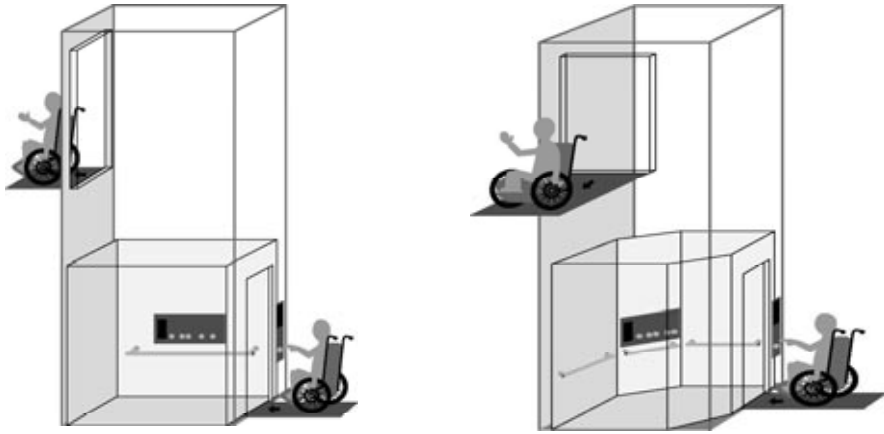
エレベーターの仕様 (図3)



かご内操作盤配置例 (図4)



かごの出入口が複数あるエレベーターのイメージ (図5)



目標となる指針の解説

●整備の対象

不特定かつ多数の者が利用し、直接地上へ通ずる出入口がない階を有する公益的施設に設置するエレベーターのうち一以上のエレベーターを車いす使用者及び視覚障害者対応の構造とし、その他のエレベーターは、車いす使用者対応の構造とする。

○「主たる廊下等に近接した位置に設けること」とは、主要動線上に設けることをいう。

項 目	解 説
2(1)床面積	○かごの床面積(2.09㎡)は、13人乗りの場合の最低床面積。
(8)鏡	○かご内で同乗者が多く、車いす使用者が転回できない場合には、後進で降りることを配慮して、かご入口正面壁面に、後方確認用の鏡(ステンレス製又は安全ガラス等)等を設ける。 ⇒図 2 参照
(14)制御装置	○かご内で回転しにくい車いす使用者の操作を考慮し、かご奥左右に専用の正副操作盤を設ける。 ⇒図 2 参照
(16)乗用ロビーの構造	○乗降ロビーの内のり幅及び奥行き180cmは、車いすが回転しやすい寸法。

配慮事項

項 目	解 説
かご内及び乗降ロビーの設備	○高齢者、身体障害者等の円滑な利用を確保するためのかご内及び乗降ロビーに設ける設備としては、社団法人日本エレベーター協会「車いす兼用エレベーターに関する標準(J E A S - A 5 0 6)」にも配慮する。
かごの構造	○かご内部の防犯や事故時の安全確保のため、かごの内部が確認できるガラス(安全ガラスが望ましい。)窓を設置する。 ⇒図 3 参照 ○非常時における聴覚障害者のための視覚的情報伝達手段として、電子文字標示盤、聴覚障害者用モニター、またはこれに代わる装置を設ける。
乗降ロビーの構造	○点状ブロックを乗り場ボタン側に寄せて敷設する。 ⇒図 3 参照 ○乗降ロビーの扉及びボタンは周囲の壁と異なる色とし、識別しやすいものとする。
車いす使用者専用操作盤等	○主操作盤には、当該操作盤の行き先ボタンを操作することにより、戸の開閉時間が通常より長くなる機能を付ける。 ○インターホンは、車いす使用者が利用しやすいように横方向とし、「国際シンボルマーク」を付ける。 ⇒図 4 参照
制御装置	○視覚障害者が利用しやすいように静電式のタッチボタン以外のボタンとする。
乗降者検知装置	○かごの出入口に、利用者を感知し、戸の閉鎖を自動的に制御することができる光電式、静電式又は超音波式等の装置を高さ25cm及び55cmの2か所に設ける。 ⇒図 2 参照
段差及びすきま	○かご床と階床は段差が生じないようにし、すきまは、車いすのキャスターが落ち込まないように、可能な限り狭くする。